

山梨スマートドライバー 第1回ミーティング

レポート 2014.3.19(水)

「やまなしみらいドライブ」
2027年 リニア開通時の
山梨の車社会を空想する

2014年3月19日、山梨県立図書館1階交流ルームで、24人の参加者を迎えて、山梨スマートドライバーの第1回ミーティングを行いました。今回のテーマは「やまなしみらいドライブ～2027年リニア開通時の山梨の車社会を空想する～」。プレゼンターの藤本恭史さんのみらいトークをお聞きし、参加者全員で13年後の2027年リニア開通時の山梨を空想し、ディスカッション、プレゼンテーションを行いました。



プレゼンター
藤本 恭史さん

今回のプレゼンターは、大月から駆けつけてくれた藤本恭史さん。2027年の山梨の車社会を空想するにあたり、まずは13年後ではなく、13年前を振り返りました。そして、リニア開通時の山梨の姿を藤本さんの豊富なデータから、大胆に予測。楽しい話を交えながら、笑いの絶えない「みらいトーク」でした。

ふじもと・やすしさん。1970年9月10日生まれ。普通高校を卒業後現在まで自動車鍛金に従事。4年前から自社ブランド「エコロビーム」で外壁の洗浄を始める。鍛金も洗浄も復元がキーワード。使えるものは元通りに復元して環境にもお財布にもECOに貢献…オブラブ。



ワークショップ(前半) 「2027年 山梨の車社会を空想する」

ワークショップは、参加者が3つのグループに分かれ、ディスカッションし、プレゼンテーションを行いました。まずは2027年、リニア開通時の山梨の車社会を空想して、山梨の未来の姿が、活発に交わされました。



グループ1 衝突を防ぐ自動ブレーキアシストを装備した自動車が増え、ますます、ロボット化していくのではないか。一方、スーパーの買い物などで駐車場に停める際、後方へバックした際の事故も増えている。それを防ぐために後方への自動ブレーキアシストも装備されるのではないかと予測。

グループ2 人の流れが変わり、交通の流れも変わると予測。交通の流れをどうするかが問題になる。山梨では、自動車がひとり1台必要だと思われているが、新しい動きとして、山梨では、あまり普及していないカーシェアも人口減に応じて、広がっていくのではないかと予測。



グループ3 2027年になっても、山梨はあまり大きな変化はないのかもしれない。しかし、ストロー現象が起きて、首都圏や、中京圏にに人口が流出してしまうのは避けられない。道路環境は産業が活性化し、物流が増えて、トラックの交通量が増えるかもしれない予測。

ワークショップ(後半) 「2027年 山梨の車社会への楽しい提案」

後半は、前半に空想した「2027年、リニア開通時の山梨の車社会」を受けて、同じく3グループごとに、山梨スマートドライバーから、山梨の車社会への斬新で新しく、楽しい提案をディスカッションしました。



グループ1 駐車場の無料化、山間部でも活躍しそうな水陸両用車が望まれる。高速道路はベルトコンベアのように、一定の速度で走行できる。鉄道コンテナに電機自動車を積み込み、エコに貢献。ロボット化が進み、ボタンひとつで目的地に。自動車と会話ができるようになると楽しい。

グループ2 観光客増加に対応して、山梨のさまざまな訪問先で詳しく案内してくれる人がいるといい。訪問先でリフレッシュしてもらう。英語、韓国語、中国語、なんでも話せる人がいてほしい。観光タクシーがあると、さらに利用者も増える。昇仙峡の馬車を甲府駅で走らせてみると面白い。



グループ3 高齢者が増えることを考え、自ら運転するのではなく、バスを利用できるようにしたら、いいのでは。また、夜遅く、お酒を愉しんでも安心して帰れるような深夜バスの営業で山梨を活性化できるのでは。山梨の車好きが楽しめるようなモーターショーを実現してほしい。

最後に、参加者全員で記念撮影



山梨スマートドライバーの第1回ミーティングに集まって頂いた皆様、ありがとうございました。また、今回はご参加できなかったけれども、いつも山梨スマートドライバーを応援して頂いている皆様、ありがとうございます。「おもいやり」を増やすことで交通事故を減らす。これからも山梨スマートドライバーをよろしくお願ひします。



YBS山梨放送
開局60周年企画

YAMANASHI
SMART
DRIVER